

# 行政視察報告

日本共産党西部地区町村議員団

柳田多恵子

視察地 埼玉県小鹿野町

日時 7月17日(木) 午前10時～12時

視察事項

- 1、検診の実施内容及び実施方法について
- 2、健康づくりについて
- 3、医療費の変化について

町の概要

埼玉県西北部に位置し秩父市に隣接。

面積 171.45 k m<sup>2</sup> 人口 14299 人

高齢者 3969 人

内、要介護認定者 700 人 (17.5%)

(要支援約 200 人)

高齢化率 27.76%

## 1、検診

町内3か所の施設において集団検診(年20回)を行い、集団検診が受けられなかった人について個別医療機関における健診とする

☆ひまわり健診(35歳～39歳の国保加入者) 健診費用・・・1000円

☆生活習慣病予防検診(40歳～74歳の国保加入者) 健診費用・・・1000円

☆おたっしや健診(75歳以上) 健診費用・・・無料

と年齢別に分かれているが、健診内容は同じである。

## 健診内容

身長、体重、腹囲、問診、血圧測定、尿検査、診察、血液検査(脂質、肝機能、糖代謝、貧血、クレアチニン) 肺レントゲン検査

・秩父郡内統一の健診内容であり、健診のコストは8190円。秩父市などは健診費用は無料であるが、小鹿野町は1000円を徴収。

・75歳以上の健診について国から高血圧や糖尿病など医療機関にかかっている場合健診の対象としないなど通知があるが、小鹿野町では今まで基本健診を受けていた人についてはその状態を継続させるという意味でも制約はしていない。

・基本健診の受診率は21%のうち高齢者の受診率は40%

・40代、50代といった現役世代の受診率アップを図るために、土日、あるいは夜に健診を行うことなど今後の検討課題となっている。

## 2、健康づくり

・昭和28年に国保町立中央病院が開設。昭和51年に改築され人間ドックの健診事業も始まった。

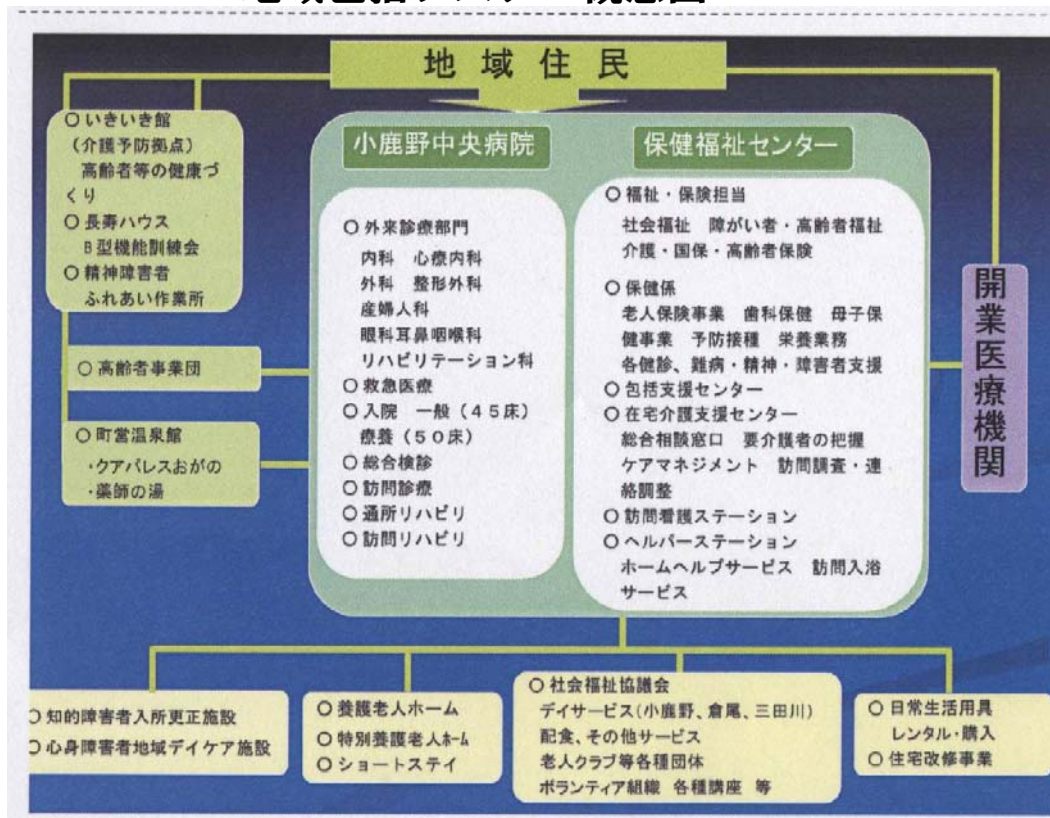
・小鹿野中央病院に併設して保健福祉センターがあり、健康福祉課福祉担当、健康増進担当、在宅介護担当、在介センター、訪問看護ステーション、ヘルパーステーションがすべて1か所にまとまっている。



・小鹿野町は保健・医療・福祉施設がそれぞれに行ってきたサービスの供給を改善し、町民に対して、一貫したサービス提供が行えるような環境をつくり有機的な連携を図っているこのシステムを**地域包括システム**とした。



## 地域包括システム概念図



配布資料より

町立病院と保健福祉センターが相互に連携し合い町民の健康と福祉事業を行っていることがうかがえる。保健師 8 人が配置されている。

保健福祉センター入口の壁におこなっている健康事業の内容や実際に事業に参加している人の成果など張り出され住民に対する啓蒙・啓発に力が入っている。



## 「いきいき館」で介護予防



配布資料より

2001年には介護予防拠点施設「般若の丘いきいき館」もオープン。健康づくり事業として、23ある老人クラブ単位ごとに高齢者を無料バスで送迎し（一回りするのにおよそ1ヶ月半）、開催されている健康づくり教室（スタッフとして保健師、運動指導士などが配備されている）やステップ教室、メディコトリムなどが行われている。

### 事業

#### 地域参加

○健康づくり教室・・・バスで送迎 いきいき館で健康チェック

☆レクレーション☆ウォーキング☆料理講習会☆音楽療法

#### 個人参加

○元気はつらつ教室・・・トレーニングマシンを使った筋肉トレーニングと機能的トレーニング（特定高齢者対象）

○ステップ教室・・・ステップ台を用いた運動とストレッチ体操

○高齢者社交ダンス教室

○メディコトリム・・・町立病院と連携し健康チェックやトレーニング（スタッフが適宜指導）記録を記入する。運動指導、栄養指導が行われている。

早い時期から医療と福祉を同時に取り組み、4月から始まった特定健診のプロセスを先取りしたものである。町立病院との連携で町民の健康に関するデータが一元化されている。

## 地域の中で健康づくりに関心を高めていく

保険補導員活動・・・健康増進活動を担う役員 220名を各行政区に選んでもらい、年3回全体会をひらき学習。お達者教室の協力 各地域で独自の啓蒙活動。

お達者教室・健康座談会

各地区の集会所全60地区を回る（5か月間を要す）。医師、民生委員に協力してもらい健康相談会や座談会を開催。来てもらうのではなく出かけて行く。（出前講座）

お達者サポーター・お達者体操を普及するサポーター（お達者体操の習得と地域普及のサポート）

町民輪投げ大会・・・年1回開催。楽しみながら運動に親しむ、仲間の輪を広げることを目指す。

## なぜ医療費が低いのか



75歳以上の高齢者の一人当たりの医療費は54万6400円（05年度）で県平均の77万3800円を大きく下回っている。なぜ医療費は低いのか。担当課から意見を聞いた。

根拠は明確にはわからないとしながらも

- 昭和58年ヘルス・パイオニアタウン事業から重点的な取り組みが始まり、以後さまざまな施策が行われてきており、長い間、首長は福祉に重点を置いてきた。
- 福祉は人であり、人材育成が必要である。保健師については昭和55年度保健婦学生奨学資金貸与条例施行（話を伺った保健師も資金貸与を受けた人であった）。保健師の養成をはかった。臨時職員についても長く働いてもらえるよう待遇面など考慮している。福祉担当常勤者は33人（保健師8名）。ヘルパーなど現業を含めると総勢96人。
- 効率化を図ることは必要であるが、原則として福祉は行革から外してもらっている。
- 老人医療費が低いところは一般的に所得水準が低いこと、医療過疎などが要因としてあげられる。確かに小鹿野町は所得水準が高いとは言えないがどの要因があげられるが、小鹿野町は中央病院以外にも開業医がおり医療過疎ではない。介護保険事業については、措置の時代から保健師が積極的に情報提供を行い対象者を掘り起こしてきた。介護給付費は高い。とのことであった。

## 視察を終えて

県は「健康長寿埼玉モデル検討チーム」を2008年に発足させ、小鹿野町を研究対象としてあげ小鹿野町で医療費が低い背景を本格的に分析していくとしている。

話を聞いて全般に思うことは、住民の健康・福祉を担うのは自治体の責任であり、そのために人材を厚く配備するのは当然のこととして職員が、安心して仕事をしているという感じを持った。また①要介護者②単身者③80歳以上の高齢者については保健師が、全戸訪問し、実態を把握している。お達者教室についてもそうであるが、「待つ」のではなく積極的に住民の中に入っていることがうかがえた。このことから健康と福祉を守るために必要と思われる事業を独自施策も含めて住民への啓蒙・啓発を行いながら積極的に展開し、実践していくこと。「福祉は人である」と職員が自信を持てる十分な人材を確保することが必要であると考えている。